

## 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第 61 回部会）会議要旨

日 時：令和 8 年 5 月 28 日（木）午後 7 時～午後 8 時 10 分  
場 所：東淀川区役所出張所 3 階会議室

### 【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題  
(1) 地域での活動報告及び意見交換  
(2) その他
- 4 閉会

### 《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 第 60 回 まちづくり通信
- ・ 【資料 1】地域での活動報告関連資料
- ・ 【資料 2】まちづくり関連資料

## 1 開会

## 2 部会長あいさつ

### （部会長）

- ・今日は啓発地域と下新庄地域の現場の実践をご報告いただいて、皆さんで意見交換をしたい。
- ・ますます地域の取り組みがこれから大切になってくる。

## 3 議題

### （1）地域での活動報告及び意見交換

#### 【啓発地域 報告】

- ・高架下の有効利用や柴島浄水場跡地の活用など、新たに生まれる土地を地域の活性化に結び付けられないかと、昨年 10 月に「未来会議」と名付け、ワークショップを開始した。大きな目標があったわけではなく、アジャイル的に、できることから進めていく方針で始めた。
- ・第 1 回では、未来の夢のような話を出してもらい、「こんなことあったらいいよね」「こういうものができればよい」といった意見を集めた。第 2 回では「温故知新」をテーマとし、昔はよかったと言うけれど、では昔のよさって何だろうと、第 3 回では、それまで出てきた意見を踏まえ、今ある資産で何ができるか、こんなことをすれば楽しいのではないかと意見を集めた。
- ・意見は 150 から 200 近くあり、集約すると、イベントや祭りの復活、コンテストの実施、防災をきちんと考えるべきである、といった内容。
- ・集まった意見から 5 つ程度の案にし、次回の第 4 回は総括として、みんなで話し合いながら、まず 1 つ何かやれることを考えてみようと思っている。PDCA サイクルの P（プラン）に入る種をまず作りたい。
- ・種から計画を落とし込み、実行し、検証し、アクションという PDCA サイクルを回し、最終的には、行政に対して提示できる「アクション」を打ち出したいが、すぐにできるとは考えていない。まずはできることを試し、振り返りながら修正していく。
- ・今後の土地利用計画に反映できるよう、「こうした活動ができる場所をあらかじめ作っておいてくださ

い」と提案できるとよい。今後さまざまな開発が進む中で、行政に盛り込んでもらえるよう、PDCAを回していく考えである。

- ・啓発地域の活性化につながればと思う。また、従来からの取組も多くあるが、思い切って変えたい部分もあり、色々なことを考えながら進めたい。
- ・予算面を踏まえると、今期中にプランニングを行い、予算を確保し、来期に実行できればという感覚である。
- ・現在の案としては、1泊避難訓練など。みんな災害を経験していないため、段ボールハウスづくりや、火起こしを自分たちで行うなど、宿泊イベントとして体験するイメージである。
- ・また、新駅2号公園で、過去に実施した映画鑑賞会とナイトピクニックをセットで行うことも考えられる。盆踊りについても「ニュー盆踊り」として、コンテスト的なファッションショーを行いたいという意見があった。そういうアイデアを5つ程度の案に整理しており、その中から具体的な形にしていく予定。多分1年かかると思う。
- ・本来は1年に1つできることを回したいが、現状の体制では難しい。まず1回成功体験を得られれば、その後は回転が上がると思う。まずは1つ実現したい。参加してくれている高校生が核になってくれるとうれしいし、夢でもある。明日が第4回未来会議であるため、結果は改めて報告する。

### 【下新庄地域 報告】

- ・資料のとおり掲示デザインが完成した。下新庄で行われている事業活動を全て網羅して掲載している。裏面には、昨年夏のカレー食堂の際に子どもたちへ「下新庄ってどんなところ？」とアンケートを行い、子どもたちが書いたものを掲載した。
- ・資料2枚目は、現在下新庄にある工事の仮囲いにシートを貼ったイメージ図。
- ・印刷準備は全て整っている。貼り付けの日程が調整できれば、それに合わせて動く。
- ・現在、仮囲いは車道沿いにあるため、前に立ち止まって見ることはできない。来年、約1mセットバックすれば閲覧スペースができ、子どもたちにも見やすくなると思う。
- ・子どもたちは自由に書いている。カレー食堂の際であったため、おいしいなどカレーの印象が多く、ほかにもイベントがいろいろあって楽しかった等が書いてくれており、かわいらしく、良かった。
- ・遊園地やスケボーパークを作ってほしいという意見もあった。スケボーパークは良い案であり、高架下で作ってほしい。

### （意見交換）

- ・スケボーやボルダリングなら人が来る可能性がある。そのような施設は少ない。新幹線までボルダリングで登るような発想もあり得る。
- ・人を集める案として、下新庄駅のホームから新幹線の様子が上から見えるようになるため、鉄道好きが来る可能性がある。ホーム上から新幹線を眺められる施設は多くない。
- ・一方で、下新庄は静かな町であるため、来訪者が増えることへの懸念もある。静かに過ごしている場所に人が集まることを好まない声もある。ただし近年はグローバル化も進み、いろいろな人が来るようになっている。
- ・もと西淡路小学校前に、美容学校ができた結果、学生の通行が増え、まちの雰囲気が変わった。今後、西淡路にライブハウスもできる。

## 【西淡路地域 報告】

- ・もと西淡路小学校での事業者公募について報告する。敷地面積は約 1 万 4,000 m<sup>2</sup>で大きな区画、用途地域は第一種住居地域である。
- ・土地の利用条件については、売却ではなく約 50 年の定期借地権とする形で決定した。ただし誰でも借りられるわけではなく、様々な条件が設定されている。
- ・まず、地域の防災拠点として、災害時避難所、一時避難場所、水害時の一次避難所、避難所運営事務所、災害救助用備蓄スペース、選挙の投票所としての機能確保が求められている。
- ・次に、地域貢献に資する提案も受け付けており、これには 10 点の加点となっている。現行で、もと西淡路小学校を使用している団体の継続利用、新たなコミュニティ活動、地域支援を条件としている。
- ・予定価格は月額賃料 267 万 3 千円であり、期間は今年 12 月から約 50 年間となっている。質問受付期間を経て、公募申込受付は 8 月 24 日までとなっている。

## （意見交換）

- ・インフラ部分はどこまで整備されるのか。借り手側が自由に整備する前提なのか。
  - ⇒・旧校舎は解体していただく必要がある。その後、何か建てる場合は事業者側で建設する。返却時は更地で返却してもらう。
  - ・体育館は解体・撤去の対象外である。引き続き使用してもよい。
- ・各部屋にガスを通して調理できるようにするなどインフラを整備し、スタートアップ企業が個別の部屋を拠点として利用できるようにすることは可能か。
  - ⇒・月額賃料 267 万円で一括して借りる形である。
- ・金沢市の廃校活用例では、一部をリフォームしエレベーターを設置して、スタートアップ向けの部屋を設けている。実験室やお試しキッチン付きの部屋があれば借りたい事業者も出るのではないか。
  - ⇒・廃校利用事例は毎年冊子で配布されており、それも参照しつつ検討してきたが、本件は建物をほぼ全て撤去する形である。
- ・防災拠点という条件をどのように実現するかが見所である。体育館を残し、投票所や避難所など地域寄りの利用を確保するのが条件に近いが、民間企業がそれをどう運用するかが課題である。
- ・2 年前の説明会でも教育施設としてほしいという要望があり、今も根強い。地域が土地を提供したのだから学校として運営するのが市の責任ではないかという意見もあった。

## 【淡路地域 報告】

- ・地図上に、この 10 年で新しいスーパーができた、小学校が廃校になった、踏切がなくなった等の変化を記載し、新たにスーパーができる等、今後の予定も盛り込んだものを作成し、配布したい。
- ・淡路のアクションプランや地域福祉計画は進捗が十分ではないが、先日改めて打合せを行い、進め方を検討した。多くの意見を集めると収束しにくいので、PTA 会長や町会長等、一定範囲のメンバーに集まってもらい、まずは、高齢者、子ども等のテーマを設定できればと考えている。
- ・テーマごとに議論の場を設け、「子どもの話だけをする場」には PTA、「高齢福祉の話だけをする場」には社協に参加してもらう等、町全体のテーマ作りを進める方向で整理している。

## （意見交換）

- ・西淡路地域では、まちづくりアクションプランをブラッシュアップしたい。テーマ別の進め方も一案であ

るが、全戸アンケートも検討したい。過去に説明会も実施しているため、夢を語ってもらうより現実的な課題を洗い出す方がよいと考える。

- ・もと西淡路小学校のプロポーザルは、防災拠点中心で行政・地域の意向が強く、事業者にとっての魅力が不足しているのではないかと考える。何か要素を追加した方が事業者は応募しやすい。
- ・下新庄のまちづくりについては、元々上新庄との関係があり、旧住民と新住民の意識差があると考えますが、融合はどの程度進んでいるのか。
  - ⇒・地域状況は変化してきている。旧住民、いわゆる「地の人」もいるが、若い世代も増えた。今年、地域活動協議会の役員改選があり、ベテランと若手を混ぜた構成とした。
  - ・以前は踏切で東西に分かれライバル意識があったが、それもなくなっている。将来、高架化で踏切がなくなれば、だんじり祭りや盆踊りも東西一体で行うという話もある。そうした議論ができる地域となっており、融合は進んでいる。
- ・啓発地域では、ワンルームマンションが増え、居住者を町内会にどう取り込むかが課題である。防災の観点では無関係ではないが、町会費を払っていないのになぜ、という意見も一部にある。若い世代とベテラン世代を混ぜたイベント等ができないか検討している。

### (久名誉教授)

- ・「動けるところから動く」という話に関連し、私も生野区南部の整備事業に30年関わっているが、なかなか進まない。土地権利が絡むと合意形成が難しいため、まずは100㎡程度の「街角広場」を作ろうという話から始めた。30年前にワークショップを開き意見を出し合う提案をした際、「そんな大阪でできるわけない」と言われたが、3か月ほど続けるうちに、小さなことなら意見を出し合って実現できるという経験が得られ、それを全体のまちづくりに活かさないかという意見が出た。何十年かかるかわからない大きな話より、みんなで一緒にイベントをやって経験を積んでいけば、その繋がりが大きなことにも繋がっていくのではないかと考える。
- ・スケートボードの例として、数年前に川西市で「スケボーパークを作りたい」という個人が「川西スケートボード協会」を立ち上げ、仲間を集めて市役所に働きかけた。若者が迷惑をかけているという誤解を解くため、大人がマナーを教える活動も行った。中国自動車道の資材置き場が空いたタイミングで市役所やNEXCOと交渉し、「カモロクスケートパーク」が整備された。オープンに至った背景には、大人のスケートボーダーが主体的に関わったことが大きい。要望だけでなく責任者が明確であれば、スケボーパークも実現し得る。
- ・生野区では、12校あった小学校が4校まで減り、8校が跡地となった。私も小学校跡地の事業者募集に関わったが、やはり手を挙げる事業者に来てもらわなければ地域はうまくいかない。
- ・最初に御幸森小学校が動き、NPO法人「多文化ふらっと」が手を挙げてくれ、現在は多文化共生を含めて跡地を活用している。ただしNPOだけではビジネスが回しにくい面があるため、食の事業者も入り、コラボで運営している。地元と事業者が協働することで、地元密着型の事業展開が可能になる。
- ・参考として、今年4月に猪名川町で「六瀬ほしのさと小学校」が開校した。廃校となった中学校跡地活用で事業者募集を行い、NPO法人「コクレオの森」と「あけぼの学園」がコラボして応募し、開校に至った。「コクレオの森」は自然を活用した自由な教育を志向してフリースクールを運営していたが、フリースクールでは卒業資格が得られない。学校として開校すれば認可を得られるため、中学校跡地を活用し、

卒業資格を得られる小学校を実現した。応募は多く、猪名川町の山の中ですが、移住して通わせたい家庭も出たという。ユニークな取組は地域を大きく変える可能性がある。

- ・神戸の湊山小学校跡地には「NATURE STUDIO」が整備され、地元建設業者の村上工務店が運営している。村上社長は阪神淡路大震災を機に地域貢献への思いを強め、建設業と地域貢献事業を継続されている。こうした思いの強い事業者が、もと西淡路小学校の公募を担えば、面白い展開が期待できる。
- ・誰が事業者になるかが重要である。焦って応募者を合格させるより、提案内容を見極め、不合格として再募集する手もある。焦らず、良い提案を行う事業者が現れるのを待つことも選択肢である。地元の方が事業者として手を挙げることが最も望ましいが、誰が担うかが鍵である。
- ・啓発地域、下新庄地域、もと西淡路小学校の話は別々に見えるが、根底で重なる点がある。それは、絵を描くだけではまちは動かず、描いたものを形にしていくことが重要であるという点である。今後は、どのような形で、誰が形にしていくのかという視点が重要となる。
- ・この10年で誰が形を作ったのか、何ができたかだけでなく、誰が実施したのかを見ることで、まちを動かすヒントが得られるはずである。
- ・最後に、事業を回せる人が味方になることが最も大きい。周囲にそうした人がいれば仲間に入れることが、形にする近道である。絵を描くだけでなく、実行する人を仲間に入れることが重要である。

#### **(意見交換)**

- ・事業者を決定することは重要ではあるが、きちんと評価をして決定してほしい。決まらなかった場合の条件変更は、慎重に検討していただきたい。

#### **(事務局)**

- ・今年度末にアクションプラン作成という目標を掲げているが、まちが大きく変わる節目はまだ先であり、実現できることを進め、改訂しながらまちをより良くしていきたい。行政としても、アクションプラン策定で終わりではなく、一緒に考えていきたい。引き続き協力をお願いする。

## **4 閉会**

---

以上